



JSPSボン研究連絡センター 2012年度第2四半期活動報告 (2012年7月～9月)

< 目次 >

1 2012年7月～9月の主な活動	…p.1
(1)ドイツ研究振興協会(DFG)年次総会に出席	
(2)ドイツ語圏日本研究者会議ならびにチューリッヒ日本学会パネルに参加	
(3)JSPS ボン研究連絡センター年次活動報告会「JSPS Abend(JSPSの夕べ)」を開催	
2 2012年10月以降の主な行事予定	…p.4
3 関係機関について	…p.4
4 当センターからのお知らせ	…p.4
5 センター長雑感	…p.5

1 2012年7月～9月の主な活動

(1) ドイツ研究振興協会(DFG)年次総会に出席

日時: 2012年7月4日

場所: ドルトムント工科大学(ドルトムント)

DFG年次総会が7月2日から4日までドルトムント工科大学にて開催され、小平センター長、中川副センター長、大川次期副センター長が7月4日の総会に出席した。今年のテーマは“Time for Science”。

総会では、2012年12月31日で任期満了となるマティアス・クライナー会長(Prof. Dr. Matthias Kleiner)の後任として、ペーター・シュトロースナイダー氏(Prof. Dr. Peter Strohschneider)が選出された。(「4. 関係機関について」を参照)

(2) ドイツ語圏日本研究者会議ならびにチューリッヒ日本学会パネルに参加

日時: 2012年8月28日～30日

場所: チューリッヒ大学(スイス)

8月28日～30日の3日間にわたり、チューリッヒ大学を会場として「第15回ドイツ語圏日本研究者会議」が行われた。本会議は、ドイツ語圏にて日本関係学を研究する研究者が一堂に参加する会議である。会議を主催するドイツ語圏日本研究学会には元JSPSフェロー(同窓会員を含む)も多く加入しており、近年では3年に一度、日本学専攻のある大学を会場として総会が開催されている。期間中は、日本をキーワードとして主に人文社会科学分野からなるパラレルセッションが実施され、大学院生を含めて研究者200名以上の参加者を集めた。

当センターからは小平センター長が「研究促進支援」と題されたチューリッヒ日本学会パネルセッションにパネリストとして参加した。同セッションには、国際交流基金ケルン日本文化会館(JIK)高羽副館長、ドイツ学術交流会(DAAD)Toyka-Foung氏、ドイツ研究振興協会(DFG)審査員 Mathias氏(ボッフム大学)もパネリストとして参加し、ドイツ語圏日本研究者会議幹事 Distelrath氏(ボン大学)の司会のもと、JIK、JSPS、DAAD からそれぞれ約15～20分ずつ日独間の研究支援プログラムの紹介を行った。その後に行なわれた質疑応答・意見交換は、当初の時間を30分ほど超過しても発言が続くほど活発なものであった。

8月29日には、ドイツ語圏日本研究会、チューリッヒ大学及びJSPSドイツ同窓会の協力のもと、当センター主催でのランチレセプション(情報交換昼食会)の場を設けた。この昼食会では、ドイツ語圏日本研究者会議に参加する元JSPSフェローや対応機関等の関係者に加え、チューリッヒの大学に所属している日本人研究者を招待し、情報交換や同窓会活動の周知を行った。会場となったチューリッヒ大学東アジア研究室の教室には20数名の出席者が集まり、ドイツ語あるいは日本語で多くの会話が交わされた。スイス在住の研究者からは、ドイツとは異なるスイスの研究状況を伺うことができた。当センターとしてもドイツ以外のドイツ語圏諸国をカバーして活動していくことの重要性を実感しており、今後も継続的に情報発信や意見交換の機会を設けていきたいと考えている。

また、学会開催期間を通して、メイン会場ロビーにJSPSのブースを設置し、JSPS事業やJSPSドイツ同窓会に関する情報提供を行った。本学会にはドイツ語圏在住・出身の日本関係学研究者や日本在住・出身のドイツ関係学研究者が集まっており、日本へのフェローシップに対する関心は高かった。ただし、同じドイツ語圏の研究者でも国籍が多様であるため、国によって推薦機関が異なることや、一部のプログラムでは国籍によって申請資格の有無が異なることに注意する必要がある。



JSPS ランチレセプション会場の様子



ハインリヒ・メンクハウス JSPSドイツ同窓会長による挨拶



JSPS ボン研究連絡センターのブース(左:シュルツェ職員)

会場の様子

(3) JSPS ボン研究連絡センター年次活動報告会「JSPS Abend (JSPS の夕べ)」を開催

日時: 9月25日

場所: ホテルブリストル(ボン市)

9月25日16:00より、JSPSボン研究連絡センター年次活動報告会“JSPS Abend“ (JSPSの夕べ)を開催した。

JSPS ボン研究連絡センターは例年、本会の対応機関、大学等諸団体、在ドイツ日本大使館、在デュッセルドルフ総領事館をはじめとする関係者を招待し、JSPS及び当センターの活動報告を行うとともに、日頃の協力に感謝の意を表し交流・協力の輪を広げるため、「JSPS Abend (JSPSの夕べ)」を開催している。

今年はJSPS本部から安西祐一郎理事長が出席し、開会挨拶と基調講演“Mind and Brain“を行った。

開会の辞として、安西理事長より、今年は JSPS 創立 80 周年及びボン研究連絡センター開設 20 周年の年であり、更に、JSPS ドイツ同窓会が外務大臣表彰を授与されたことについて報告があり、これまでの来賓各位からの JSPS 及びセンターへの支援について謝辞が述べられた。続いて DFG の Kleiner 会長より、JSPS との協力により日独の学术交流・学術協力が発展しており、今後もこの関係をより成熟させたいとの祝辞が述べられた。

この後、中根在ドイツ連邦共和国特命全権大使より、自らのドイツ留学時の思い出話を交えた祝辞が述べられた。祝辞に引き続き、外務大臣表彰が JSPS ドイツ同窓会に伝達され、同窓会を代表して Prof. Dr. Menkhaus 会長が受け取った。Menkhaus 会長からは、同窓会の活動の経緯と、これまで支えてくださった来賓の方々への感謝の意が述べられた。

この後 20 分間の奏楽を挟み、安西理事長による講演「Mind and Brain」が行われた。ビデオ映像や来賓が参加するクイズも含まれ、好評のうちに終了した。10 分間の奏楽を挟み、DAAD の Wintermantel 会長による乾杯の挨拶に続き、出席された方々は情報交換とともに親睦を深めた。会の後半において、AvH の Aufderheide 事務総長により祝辞が述べられた。最後に、小平ボン研究連絡センター長の感謝を込めた閉会の辞により、盛況のうちに閉幕した。



安西理事長の講演

中根大使よりメンクハウス同窓会長に外務大臣表彰伝達

2 2012年10月以降の主な行事予定

- 11月16日(金) 日本の大学及び渡日プログラムの紹介イベント“Forschung und Studium in Japan“ (於ミュンヘン)
- 01月29日(火) 第9回日独学術コロキウム(於カールスルーエ)
- ～2月1日(金)

3 関係機関について

ドイツ研究振興協会(DFG)

マティアス・クライナー会長(Prof. Dr. Matthias Kleiner)の任期が2012年12月31日で満了しますが、後任の会長が2012年7月4日のDFG年次総会にて選出されました。後任は2006年から2011年まで学術評議会(Wissenschaftsrat)の会長を務めたドイツ文学者のペーター・シュトロースナイダー氏(Prof. Dr. Peter Strohschneider)で、現在はシニアリサーチフェローとしてFreiburg Institute for Advanced Studiesに所属しています。

<関連URL>

DFG ホームページ

http://www.dfg.de/en/service/press/press_releases/2012/press_release_no.31/index.html

4 当センターからのお知らせ

中川正志副センター長は任期満了により2012年7月25日に帰国し、8月1日より新潟大学研究支援部国際課にて勤務を開始しました。中川さんは2010年8月1日より2年間、副センター長として勤務し、本活動報告の執筆も担当して頂きました。後任として、東京工業大学から大川が2012年8月1日付で副センター長に着任し、本号から本活動報告の執筆も担当します。

5 センター長雑感

7月末に副センター長の交代があり、中川さんが帰国して大川さんがボンに来られた。センター長の小平を加えると「大・中・小」と並ぶので、何かの因縁かも知れない。

昨年は日独修好150周年の記念行事で中川さんが活躍したが、今年は学振創立80周年、ボン・センター発足20周年とあって、大川さんは仕事の渦の真ただ中に飛び込んで大奮闘。訳せば「学振の夕べ」となる例年の年次活動報告会 JSPS-Abend(9月25日)では、安西理事長が「心と脳」という学術講演をなさり、また学振ドイツ語圏同窓会が日本国外務大臣表彰を受けて、中根大使ご出席のもと伝達式が行われた。出席者の顔ぶれも賑やかで、最近は、ドイツ人が三重災害後の日本を見直している気配が感じられ、それが仕事の励みになっている。

日本では「最近の若者は外国に行きたがらない」とメディアなどで言われているようだが、ドイツに居ると、たくさんの若い学生・研究者が入れ替わり立ち替わり来ているのに出会い、メディアが使う統計が不完全か、一部大人の偏見が喧伝されているのではないかと、心配している。変則的だったボンの夏も、すっかり秋らしくなった。

(小平桂一2012. 9. 28.)

ぼんぼん時計第37号
日本学術振興会ボン研究連絡センター
JSPS Bonn Office
Ahrstrasse 58, D-53175 Bonn (事務所住所)
Postfach 20 14 48, D-53144 Bonn (郵便物用)
Phone +49 (0) 228-375050 Fax +49 (0) 228-957777
www. jsp-sonn. de